

令和5年度の教育活動等に対する学校評価書

学校法人富士学園 静岡県富士見中学校・高等学校

1 本年度の重点目標（学校評価の具体的な目標や計画）

(1) 教育学習面改善のための取り組み

5つの柱として、「教育充実のための取り組み」「各コース等の特色化」「研修体制の確立」「部活動の活性化」「保護者会との連携強化」を掲げ、学習面の改善を図る。

(2) 学習支援のための取り組み

生徒理解を基盤とし、学習指導と生徒指導を一体化した授業づくりを実践し、確かな学力を身につけさせるとともに、個性の伸長を図りながら、楽しく分かる授業、一人ひとりが活躍できる授業づくりに努め、生徒の自己有用感や自己肯定感を高める中で、社会的資質や行動力を育成することを目指す。

HR担任を中心に生徒理解を一段と進め、生徒一人ひとりに寄り添う指導を強め、生徒が安心して学習できるサポート体制を構築する。

(3) 進路実現支援のための取り組み

進路実現の支援として、「進路指導の充実」「進路実績の向上」を図る。

(4) 地域連携・地域貢献のための取り組み

全人格的な生徒の育成を目指し、教科での指導を超えた地域に根ざしたボランティア活動や部活動等を活性化するための環境整備を行う。特にコミュニティ研究会を基軸に地域貢献などを通して、年間を通して地域との共生の広がりを目指す。また、生徒会や希望する一般の生徒など、参加者の輪が広がるよう促す。

(5) 生徒募集のための取り組み

在校生・卒業生が富士見で学んでよかったと思えるよう、全教職員が日々の教育活動を充実させるとともに、本校の魅力を分かり易く整理し、富士見で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の定員確保を図る。

2 自己評価とそれに対する学校関係者評価

【※ 評価は、A（十分に成果があった）、B（成果があった）、C（少し成果があった）、D（成果がなかった）】

1. 教育学習面改善のための取り組み	
実践計画	<p>(1) 「教育充実のための取り組み」</p> <p>特進コースは、他の進学校と比較すると実績はまだ乏しく、国公立大学への合格者の比率を増加させるとともに、難関私立大学への合格者の増加を目指す。総合（進学）コースではキャリア教育を進路指導の基点にして、どのように学び、どのような力を身に付けるのか、社会とのつながりを意識した学びを進める中で生徒の多種多様な進路希望の実現を目指す。</p> <p>さらに、学年進行でiPadが生徒一人一台端末として導入されるにあたり、ICTを活用した指導方法についての助言や研修支援など通して、全教員が授業改善に取り組み、主体的で対話的な授業を実現する。</p> <p>また、学校改革を推進していくために、学校評価をより丁寧に行う。授業評価・保護者アンケート、学力分析によるPDCAで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。昨年度に引き続き、分掌・学年ごとの自己評価を中間評価として夏季休業中に行うことによってより迅速な改革につなげていく。</p> <p>加えて、年間計画を明確にすることによって、計画への取り組みを全体で共有できるようにする。総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、関係者評価や分掌総括を行い、次年度への取り組みの指針とする。</p> <p>(2) 「各コースの特色化」</p> <p>① 特進コース</p> <p>令和5年度からの3年計画で、以下の2点を重点的に進め、特進コースI類の国公立大学合格者が恒常的に50%以上実現できる体制を構築する。</p> <p>ア) 進路決定までの本校での3年間の流れを明確化する。</p> <p>イ) 先輩教員の指導の下、特進コースに携わる教員の「授業力」向上のための研修を強化する。</p> <p>また、従来通り推進してきた、教科学習と並行して、外部との活動を中心に、探究的な活動を進め、社会との関わり方（将来や進路）を考えることに繋げる。</p> <p>② 総合コース（進学コース）</p> <p>生徒の能力、適性や興味・関心、進路希望の多様化など、様々な学びのニーズに対応するため、「探究的な学び」「地域等と連携した学び」「学校外の学修」などを推進する。</p> <p>大学進学から就職など幅広い進路希望を有する生徒に応じた授業に加え、個別指導を強化し、基礎・基本の定着を図る。</p> <p>③ 中学部</p> <p>高校がある中学の良さを活かせるような教育活動を具体化し、特進コースに接続した内進生との縦割り交流の機会を設ける。</p> <p>「英語多読」を軸に英語の教育活動を強め、ALTを活用し、外部への発信、コンクールへの参加、各種検定への挑戦などを目指す。</p> <p>(3) 「研修体制の確立」</p> <p>① 教員研修の充実</p> <p>初任者研修の継続（ベテラン教員と中堅教員、若手教員の情報交換の場に深化させる）とともに、ICT活用研修（ソフト面での活用の広がり）、「授業力」向上研修を充実させる。</p> <p>② 学年会議やコース会議・教科会議等の充実</p> <p>生徒の情報共有や指導法の検討を充実させる。</p> <p>(4) 部活動の活性化</p> <p>① 部活動入部率の向上</p> <p>多くの生徒が部活動に所属し、有意義な放課後にするために、部活動加入Week等で部活動への加入を推奨し入部率の向上を図る。</p> <p>② 学校全体で、部活動を応援できる体制づくりを推進する。</p> <p>部活の結果や賞状等を昇降口に掲示するなど、学校全体で情報を共有し、生徒を称賛する雰囲気醸成を図る。</p>

	<p>③ 外部発信 ホームページの随時更新、報道提供などを強化する。</p> <p>④ 教育後援会組織の研究 特色ある教育活動、国際交流、運動部、文化部等の活動振興支援などで、多彩なサポートをしていただく組織の在り方について検討する。</p> <p>(5) 保護者会との連携強化 学校・家庭・地域社会を結ぶ要として重要な役割を担う保護者会の重要性を再認識すると共に、コロナ禍により、制限されていた保護者会活動を活性化し、保護者会と学校の連携強化を図る。</p>	
自己評価	<p>(1) 「教育充実のための取り組み」⇒評価B →・特進コースは、令和7年度を目安に改革を進め、募集定員の確保及び国公立大学や難関私大の合格者の増加を目指した。 ・総合コースは、探究学習を含め、生徒主体の授業への転換や基礎基本を大切に、様々な進路に対応した指導を目指した。 ・高校1年生は、全員がiPadを持たせ、授業や伝達などに活用した。ただし、活用した教員は限られていた。 ・生徒・保護者への授業評価や学校評価アンケートから反省を含めて改善できるように進めた。 ・各分掌・学年は、中間総括から改善を図ったが、数値化を行わなかった為、具体的な改善は分かりにくかった。</p> <p>(2) 「各コースの特色化」⇒評価A</p> <p>① 特進コース →・高校1年生を中心にした特進会議を定例化した。 ・実態把握のみならず3年間の指導計画を立て、学年進行ではなくコースとして方策の実践に努めた。 ・高校2・3年生は進学支援チームを中心に個別指導を行った。 ・Ⅱ類3年生は夏休みに40時間勉強会チャレンジを実施した。</p> <p>② 総合コース（進学コース） →・探究学習など興味関心を様々な方面に持たせたが、なかなか上手くいかなかった。 ・実態に合わせて各種検定取得のための個別学習を実施した。 ・高校2年生で特進同様に進学出陣の会を実施した。</p> <p>③ 中学部 →・中学部全体でFキャンプを実施し、F委員会を中心にした縦割り学習の成果が大いに発揮された。 ・中学3年生の海外語学研修など特色ある様々な体験的活動が実施でき、とてもよい機会となった。 ・英語の絵本を用いた多読や新聞を用いたNIE(Newspaper in Education)活動などを行った。 ・F委員会など縦割り学習での発表の場を多く設け、生徒の成長の場となった。</p> <p>(3) 「研修体制の確立」⇒評価B</p> <p>① 教員研修の充実 →・中堅教員からのアドバイスにより若手教員研修を実施した。 ・ICT研修で実践報告を行う中、タブレットの使用機会を増やし活用できるように心掛けた。 ・中間総括により、各分掌や学年で1学期の反省を踏まえて2学期以降の改善に努めた。 ・保護者対応の講習会を静岡大学より講師を招き実施した。</p> <p>② 学年会議やコース会議・教科会議等の充実 →・学年会議は定期的に会議の時間をとることができなかった。ただし、コース毎で情報共有を行った。 ・教科会議はタブレットでのより良い授業展開をする為の研修機会を持った。</p> <p>(4) 部活動の活性化⇒評価A</p> <p>① 部活動入部率の向上 →・高校1年生の加入率は昨年とあまり変わりなかった。また、運動部への加入率が低い。 ・写真部やコミュニティ研究会など中学校では無い部活動に人気集中した。 ・生徒の興味関心がある部活動を考え、部活動の新設及び統廃合を考えていく必要がある。</p> <p>② 学校全体で、部活動を応援できる体制づくりを推進する。 →・昇降口に各種大会で得た賞状を掲示し、生徒の活躍の発表の場とした。 ・HPとSNSを通して大会結果等を発信することにより応援体制を強化した。 ・女子バレー部・女子ソフトテニス部・男子陸上競技部が全国総体に出場、男子バドミントン部・女子ソフトテニス部が全国選抜への出場を決めた。 ・女子バレー部では春高バレー県大会11連覇を果たし、全国総体に続き春高バレーでも全国ベスト8に入るなど目覚ましい活躍をした。 ・バトントワリング部と女子将棋部が全国高文祭に出場した。 ・女子将棋部は、団体で全国3位に入賞するなど活躍した。 ・コミュニティ研究会では高文祭新聞部門で、令和6年8月に岐阜県で開催される全国大会への出場が決まった。 ・様々な文化部が熱心に活動する中で、大会のみならず様々な行事等で活躍した。</p> <p>③ 外部発信 →・HPとSNSを通して行事や部活動等、生徒の活動をアップした。 ・学年便りを用いてSNSのQRコードを載せた結果、フォロワー数が以前に比べ増加した。 ・コミュニティ研究会が、学校新聞の代わりとしてコミュニティ通信Neoを発行した。 ・各種行事で報道提供したが、なかなか載せてもらえない現状があり、対策が必要である。</p> <p>④ 教育後援会組織の研究 →・今夏の全国大会が北海道と鹿児島で開催された。熱心に活動する部活動が多くなった為、活動費は厳しい現状であった。 ・活動費が厳しい状況において、他校の現状を調査し、後援会組織の設置を含めた検討をする必要がある。</p> <p>(5) 保護者会との連携強化⇒評価B →・保護者会活動は、コロナ禍以前に行っていた活動と同様に実施した。</p>	A

	・富士見祭では、文化・体育の部ともに保護者も参加する中、活気ある活動が実施できた。	
学校関係者評価委員から	<ul style="list-style-type: none"> 重点目標の「教育学習面改善のための取り組み」と「学習支援のための取り組み」の違いがわからない。 中学募集停止に伴う高校の教育課程・進路指導・部活動の新たな取り組みが明確に見られない。中学の教育活動で得た成果やノウハウ、授業のやり方等を高校に活かす、還元することが必要。募集停止に伴う高校の取組を、今後はどうするかという整理が欲しい。 部活動は、運動部・文化部の両面において成果が上がっている。 公立校では部活動を外部へ移行させる動きがあるが、本校の部活動の学校での位置づけをどのようになされているか。 生徒・保護者は、ほぼ学校に満足している。 計画に対して、評価における具体的記述がないため漠然としていて、つかみにくい。 各コースの特色化にあつては、総合コースへの対応に苦慮されているようだが、どのような点か？また、FキャンプやF委員会について、どのような主旨であるか説明を受けたい。 研修体制の確立のために教員研修として引き続き「若手研修」が実施された中、どの点で効果をあげたか。また、中間総括を受けてどう改善したか？保護者対応研修実施の背景などをお聞きしたい。 部活動の活性化は、学校の重要施策ではないか。SNS上での部活動発信は増加しているなか、次のステージとして学校として何を求めるかを考える段階かと思う。富士見高校の現状と将来を見据えた後援会組織の再考は、部活動が活性化する中で急務かと思う。 護者会との連携強化については、保護者会に富士見高校の一層の発展に向けて、「何を求めるか」に尽きるかと考える。 保護者会と連携を取ることが、学校・家庭・地域社会と結ばれることだと思う。 変化していく学校や社会のニーズに対応できるよう教員の学校内外での研修は有意義だと思う。研修の機会を増やして学習指導・生活指導に活かしてください。 国公立大学・私立大学の合格者の増加を目指し、初任者教員研修を充実している事は、大変良い取り組みと思う。 春校バレー全国ベスト8、また、女子将棋部全国3位など、目覚ましい活躍だと思う。 昨年度よりも改善されている。静大・県立大の進学者が多くなり、今後は大学とのパイプを深くでき、大学からの講師を迎えた指導も増やすことができると思う。 各コースの特色化については、それぞれの良いところが出ていて、進学・就職の結果にもつながっている。 部活動の活性化については、女子バレー部のように外へ発信できる「部活動的広報活動」となれば、他の部活も一段と部員数が増え、学校の宣伝になる。今以上に結果が出せる部活動体制が必要だと思う。 保護者会との連携強化はもちろん、「家庭・学校・地域」が三位一体となって学校を盛り上げて行くことは、今後も継続して、子供たちに何ができるかを考えて行ければ良いと思う。 特進に入学するような学力を求める生徒は、公立の進学校等を選ぶケースが多い感じ。その一つに総合コースのイメージが今ひとつと聞く。その意味で、総合コースの意識改革は意味があると思う。また、特進コースの進学実績は最も気になる所でもある。 部活動を応援する体制づくりでは、全国大会に参加するような生徒を評価し、学校として盛り上げることは良いこと。 	A 3 B 3 C 1
2. 学習支援のための取り組み		
実践計画	<p>(1) 学習支援の充実</p> <p>多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の修得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。</p> <p>① 新教育課程の学年進行による円滑な実施</p> <p>② 生徒表彰制度の拡充</p> <p>生徒の意欲を高め、積極的に英語検定、漢字検定など各種検定試験に挑戦させることにより学習の補助となる基礎知識の充実を図るためのモチベーションアップにつなげる。</p> <p>③ 教育相談の充実</p> <p>HR 担任、養護教諭、カウンセラーの情報共有を密にし、不登校又は教室へ入りにくい生徒への対応をきめ細かくできるように努める。(火曜日と水曜日にスクールカウンセラーを配置)</p> <p>④ 生徒理解の充実</p> <p>面接週間だけでなく、適宜個人面談を行い、生徒一人ひとりを把握し、個々の生徒に応じた指導を実施する。特に、いじめの重大案件については、全校的な取り組みができる体制をつくり、迅速に対応できるように図る。</p> <p>(2) ICT環境の活用と整備計画</p> <p>① 生徒用 iPad の利用推進 (中学・高1年)</p> <p>② 情報モラル教育の充実</p> <p>情報機器や通信ネットワークを通じて社会や他者と情報をやり取りするにあたり、危険を回避し責任ある行動ができるようになるために身に付けるべき基本的な態度や考え方を養う。</p> <p>(3) 教育のPDCAサイクルによる成果の可視化</p> <p>① 保護者アンケート→教育活動の方針に沿ったアンケートに改善</p> <p>② 外部模試後の学力分析会の実施</p> <p>③ 授業公開・研究授業の実施</p> <p>保護者への授業の公開 Week を年2回設定し、学校公開を積極的に行うと同時に、保護者の視点での授業評価を真摯に受けとめ改善に取り組む。</p> <p>(4) 国際交流の充実</p> <p>グローバル化が進む中での教育には欠かせない交流事業を推進し、留学生の受け入れを行い、国際交流と共に異文化理解も深めていく。中山工商 (台湾の高校) との交流を深めるとともに、時差のないオンライン交流ができるオーストラリア、ニュージーランド等の高校との交流を模索し、授業で学習している英語が使える場を提供する。</p>	
自己評価	<p>(1) 学習支援の充実⇒評価C</p> <p>① 新教育課程の学年進行による円滑な実施</p> <p>→・高校2年生まで新課程へ移行したが、試験結果のみならず個々の取り組み姿勢などを中心に評価した。</p> <p>・公立中学では課題の提出を強制しないなど、従来の指導と変わってきている為、教員側との考えの差が大きいと思われる。</p> <p>② 生徒表彰制度の拡充</p>	C

	<p>→・全校集会における表彰に加え、昇降口に表彰生徒の賞状を掲示するなど称賛の場を設けたが、生徒への周知の点では今一步であった。</p> <p>③ 教育相談の充実 →・スクールカウンセラーは、生徒や保護者の相談が増加したことに伴い、相談できる担当者を1名増員したが、うまく機能しなかった。</p> <p>④ 生徒理解の充実 →・担任のみならず授業担当や学年部の教員が様々な形で相談できる体制をとった。 ・以前には少なかった男子間や部活動内でのトラブル、保護者の過干渉などで苦慮するケースがあった。 ・静岡大学から講師を招き、生徒・保護者の変化に寄り添った対応を行う為の講演会を開き、保護者対応等を学ぶ機会をもった。</p> <p>(2) ICT環境の活用と整備計画⇒評価C</p> <p>① 生徒用 iPad の利用推進 →・高校1年生では、一人一台 iPad を持たせ、授業内で活用を図ったがうまく機能したとは言い難い。 ・各教科及び教員間の使用頻度など、利用の差が大きい。</p> <p>② 情報モラル教育の充実 →・高校1年生を中心に、クラスや学年全体で使用方法を含め指導を行ってきたが、使用目的を逸脱したことが目立った。 ・スマホは中学時より使用の責任を家庭に負うよう指導をされているが、実際には学校が関わる必要がある。 ・今後も校内での指導の徹底を含めてモラル教育を重ねていく必要がある。</p> <p>(3) 教育のPDCAサイクルによる成果の可視化⇒評価B</p> <p>① 保護者アンケート →・活動方針に沿ったアンケートにおいて、従来の設問から一部の改善を図った。 ・アンケートは紙媒体ではなく BLEND を通してネットで行ったが、回収率が71%で、昨年に比べ下がったのは残念であった。 ・結果に大きな変化ないが、入学後の満足度がアップするような方策を考えていく必要がある。</p> <p>② 外部模試後の学力分析会の実施 →・特進コースは、分析を行い個々の指導に活かせるように取り組んだ。 ・得意教科を活かした進路選択を指導したことにより、結果に繋がった部分もあった。</p> <p>③ 授業公開・研究授業の実施 →・授業公開は1・2学期の各2回行い、出席者(保護者)は昨年に比べ微増であったが、概ね好評であった。 ・研究授業は、6月に新任教員、11月に一部の教員(順番制)による授業を実施した。 ・11月の研究授業では、授業等がマンネリ化しやすくなるので、教員間での意見交換の場として非常に有意義であった。</p> <p>(4) 国際交流の充実⇒評価B</p> <p>→・一昨年より台湾の中山工商とオンラインで交流を行い、5月には10数名の生徒が修学旅行を兼ねて来校した。 ・中山工商との交流は一部の生徒だった為、学校全体として英語圏の学校との交流をする機会を増やしていきたい。 ・希望者によるオーストラリア研修が実施できなかったが、中学3年生は2月にオーストラリアへの語学研修を行った。 ・約10か月間のドイツから留学生の受け入れを行っているが、留学生との交流が所属クラスに限られていた。 ・学校全体で留学生を巻き込んでの研修などが必要だと考える。</p>	
<p>学校関係者評価委員から</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT 活用の効果が十分に出ていない。 ・ 新聞・本を読む生徒の割合が少ない。朝読書の効果が出ていない。かえって、ICT 活用の逆効果が出ているのか。 ・ 国際交流は、中学では充実しているが、全校には十分に波及していない。 ・ 学校評価アンケートは、学校評価書とのリンクが不十分である。また、当初頂いたアンケート結果には、重大で初歩的なミスがあった。誰もチェックをしていないのか、気付いても言えなかったのか、職員の雰囲気はどうか、危機感を抱いた。 ・ 学習支援の充実のために、表彰制度の活用や教育相談体制拡充、そして、生徒理解のための対応については、精査して行く必要があるかと。 ・ ICT 環境の活用と整備計画について、実践した中で、ポイントとなる改善点は何か、よくわからない。 ・ 教育のPDCA サイクルによる成果の可視化では、保護者アンケートから、何が改善され、その理由は何であったかを知りたい。 ・ 国際交流の充実にあっては、学校として「国際交流」をどう考えられているのかが大切。海外とでなくても、国内で、それも地元で、異文化・国際交流は可能。まず、地元で深めることを探ることを考えたらどうか。本町通を歩いてみると、ベトナムや韓国などいろいろな国の店がある。地元で異文化を学ぶこともできる。また、この点、高大連携を通じ大学から専門の先生方を派遣お願いしたら、連携の新しい形態を創出でき一石二鳥と考える。 ・ 『1 本年度の重点目標 (2)学習支援のための取り組み』の前段が総花的過ぎて、どういう生徒育成を目指すのか理解に苦しむ。後段も学校が当然すべきことが記載されているが、それが出来ていなかったようにも読める。看板の理念であり、再検討願います。 ・ ICT 環境が整っているのか、見えてこないのが疑問です。国際交流も中学生がやっている事を聞きますが、オンラインになっているので見えてきません。 ・ 相談は多岐にわたると思われる。生徒や保護者の不安を無くすために、富士見ならではの相談しやすい雰囲気のもとで、対応や支援がされている様子がアンケートからもよく伝わってくる。しかし、保護者アンケートの回収率が71%で低く残念とのことだが、来年度は改善策を考えて欲しい。 ・ いじめや不登校の生徒一人ひとりに応じた指導を実施し、迅速に対応できるように、担当者を増員したことは良いと思う。 ・ 生徒表彰制度の拡充においては、生徒の学習補助となる基礎知識の充実を図るためのモチベーションアップにつながっていると思う。社会に対応できるスキルを学生の内に身に付けられることは、大変素晴らしいことである。 ・ 生徒一人一人の能力に応じた個別指導は、保護者としてはありがたい。 ・ イジメの原因となる根っこの部分を、いち早く見つけられる体制を作ったことは評価できる。 ・ ICT 環境を活用し、それに対応する力を養うことは、子供たちがデジタル社会を過ごしていく上で、必要なスキルを習得できるので、非常に有益な取組である。 ・ 年2回の授業公開 Week は、子供たちが何を学んでいるかがわかり、保護者が学校を知る良い機会になると思う。 ・ 国際交流の充実により、授業で学習している英語を使えるのは良いことである。 	<p>A 3 B 2 C 2</p>

	<ul style="list-style-type: none"> PDCA サイクルによる成果の可視化により、次なる改善案を作成し、成果向上をさせるのは良いことである。 iPad を用いた授業では、度々ニュースでも見かけるが、イジメや授業妨害等はなかったのだろうか。アンケート No15 の「いじめ」「無視」「嫌がらせ」が全ての学年で増えているのが気になる。特に特進では、0%が16%に増えている。 公開授業への参加者(保護者)が増えたようだが、参加アンケートで目的を聞いておけば、保護者のニーズもわかるかもしれません。 	
3. 進路実現支援のための取り組み		
実践計画	<p>(1)進路指導の充実</p> <p>確かな学力を定着させて進路選択を広げる。一人ひとりの進路希望を的確に把握して進路指導を推進する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 高大連携プログラム（神奈川県・神奈川県）の活用 オープンキャンパスや大学訪問への生徒の積極的な参加促進 大学の主催する教員用説明会への積極的な教員派遣及び生徒への情報提供の徹底 就職希望者へのキャリア指導の充実（会社説明会や会社見学への参加促進等） 進路学習（校内実施）に外部から講師を招き、進路選択の幅が広げられるよう努める。 <p>(2)進路実績の向上</p> <p>教員の「授業力」の向上に加え、放課後の有効活用（探究活動・自主学習・補習）を効果的に実施し、更なる進路実績の向上を実現する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 国公立大学合格実績の向上 （Ⅰ類 21名・Ⅱ類7名・Ⅲ類4名・進学3名の計35名の合格を目指す） 私立大学合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） 看護学校・公務員等の合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） 就職内定率の継続（内定率100パーセントの継続） 本校中学生の100%が富士見高校に入学するよう、高校進学への期待感を高めると共に、学校生活への満足度を向上させる。 	
自己評価	<p>(1)進路指導の充実⇒評価B</p> <ol style="list-style-type: none"> 高大連携プログラム（神奈川県・神奈川県）の活用 →・高校1年生は、神奈川県・常葉大学から講師を招き、文理に分けての各系統の講演を行った。 ・高校2年生は、作家を講師に招き、古典についての魅力や楽しさについての講演を行った。 ・神奈川県とは連携を行わなかったため、今後は、積極的に進路指導の機会をもっていきたい。 オープンキャンパスや大学訪問への生徒の積極的な参加促進 →・高校1年生は、特進コースが東京大学や早稲田・明治大学、総合コースが帝京大学・帝京平成大学、中学部が神奈川県への見学を実施した。 ・進路説明会などへの積極的な参加を促し進路意識の向上を図った。 ・早期からのオープンキャンパス等を勧めることで、大学等進学希望者は増加しつつある。 大学の主催する教員用説明会への積極的な教員派遣及び生徒への情報提供の徹底 →・進路指導部や高校3年生の担任を中心に説明会には積極的に参加した。 ・受験指導の研修の為、教員による富士見高校への授業見学を実施した。 就職希望者へのキャリア指導の充実（会社説明会や会社見学への参加促進等） →・就職内定後のミスマッチが起こらないように会社見学を義務付けている。 ・会社見学だけでは不十分のため、インターシップ等を早めに体験させ、様々な仕事について知る機会を設ける必要がある。 進路学習（校内実施）に外部から講師を招き、進路選択の幅が広げられるよう努める。 →・特進コースでは、高校2年生を対象に河合塾とベネッセから講師を招き、進路意識の向上を図った。 <p>(2)進路実績の向上⇒評価A</p> <ol style="list-style-type: none"> 国公立大学（大学校を含む）の合格実績の向上 →・名古屋大や金沢大等、過年度生の1名を含め45名と過去最高の合格者となった。内訳はⅠ類30名、Ⅱ類7名、Ⅲ類4名、総合コース3名、過年度生(Ⅱ類)1名が合格した。 私立大学合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） →・Ⅰ類で東京理科・中央・立命館大、Ⅱ類で学習院大や日東駒専などは合格したが、従来に比べ、公立志向が高かったため、私大に挑戦する生徒が少なかった。 ・昨年に比べ、総合コースは専門学校への進学が増え、学校全体でも私大への合格者数が減少した。 看護学校・公務員等の合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す） →・看護学校は、学校推薦型での国公立大学の合格がでなかった。ただし、名古屋大や防衛医大の合格が出るなど、最後まで諦めることなく挑戦し、私立大学や高等看護専門学校へ合格を果たした。 ・公務員では、1名の希望者であったが法務局へ合格を果たした。 就職内定率の継続（内定率100パーセントの継続） →・希望者が少ないものの、求人倍率が5倍を超え、売り手市場が続いている。今年度も内定率は100%であった。 本校中学生の100%が富士見高校に入学するよう、高校進学への期待感を高めると共に、学校生活への満足度を向上させる。 →・6年度は、中学の在籍数が少ない中で富士宮北高校へ1名が外部受検することになり残念であった。 ・成績上位者はⅠ類への進学を希望している。 ・中学校が募集停止になったが、特進コースの改革により進学が期待でき、楽しく有意義な高校生活が継続できることをアピールして全員が本校へ進学することを目指す。 	B
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導は、多面的に取り組まれ、成果が出ている。 保護者の経済状況、また県内を希望している保護者が多いことから、県内の国公立大等に重点を置いた進路指導が必要と思われる。 進路指導の充実については、高大連携プログラムに係る講義、講演をはじめ生徒のオープンキャンパス参加や大学訪問、教員の大学主催説明会参加など、盛り沢山の行事としての印象を受ける。また、就職希望者へのキャリア指導や進路学習校外講師招聘等まで考えると、込み入った取組みを感じる。精査し、整理する時期にもあるのではないかと。 進路実績の向上では、国立大学、私立大学等への合格実績の向上は、当校の柱のひとつ。期待は大きい。よって、生徒育成の明確な目標、最終的なイメージ像を学校全体で、再度、共有したい。看護学校・公務員、就職の分野でも同じ。 	A 3 B 4

委員から	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部入試が停止となったのは淋しいが、その分、明確な目標のもと、高等学校で理想として描かれる生徒育成に全校あげて力を注いで欲しい。 ・ 就職率が毎年 100%は、とても良い ・ 神奈川大学・神奈川工科大学との更なる連携強化が欲しい。(特に入学者の増) ・ 大学合格者増は、静岡大学・静岡県立大の難関ばかりではなく、県内大学合格率上げて良いのでは。 ・ 早期のオープンキャンパス参加は、大学選びの大切なステップの一つと思う。 ・ 大学進学希望者が増加となり、生徒の向学心に結び付いたのではないか。 ・ 就職内定率 100%は素晴らしい。会社見学だけでなく、インターンシップの参加で働く環境を体験できる機会となりました。これからも参加を勧めて良い結果につなげて欲しい。 ・ 大学合格者の実績の向上を目指し、積極的に大学訪問をすることで、大学希望者が増加していると思う。 ・ 就職率 100%は、素晴らしい。 ・ 高大連携プログラムは、進学を希望するうえで、非常に良い取り組みだと思う。 ・ 進路指導は充実しており、今年度、国公立大学合格者が 40 名を超えるようだが、素晴らしいこと。進学実績向上に伴い、静大、県立大、常葉大とのパイプを太くし、富士見高校に来れば必ずそこへ進学できるという安心感をもってもらえるのも、今後の入学志願者の増加につながると思う。 ・ 特進コースでは、先生方が個人の希望に合わせた必要な対策を取り、学習指導だけでなく受験に対する知識を持たせ、有難く思う。また、コミュニティ研究会での活動を推薦で活用した学生も多く、それ以外にも外部のコンテストに参加するよう先生から声掛けがあり、将来の進路につながった話も聞く。公立校での先生方の経験が若い先生など、学校全体に広がって行くような体制ができれば、より進路実現も充実していくと思う。 	
4. 地域連携・地域貢献のための取り組み		
実践計画	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動 (2) 部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開 (3) 施設訪問やボランティア活動の活性化 	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> (1) 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動⇒評価A <ul style="list-style-type: none"> →・交流プラザや富士本町等で開催されたイベントに積極的に参加し好評であった。 ・吹奏楽部と箏曲部は、富士第一小学校 4・5 年生への音楽教室を開き好評であった。 ・河川や海岸清掃などでは、清掃活動のみならず地区の歴史や言い伝えなどを学ぶなど、地域とのつながりを持った。 (2) 部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開⇒評価B <ul style="list-style-type: none"> →・吹奏楽部・バトントワリング部・箏曲部・コミュニティ研究会など依頼のあったイベントには積極的に参加した。 ・音楽部は、富士駅周辺で行われたイベント等に参加し好評を博した。 (3) 施設訪問及やボランティア活動の活性化⇒評価C <ul style="list-style-type: none"> →・学校周辺の高齢者からの依頼により、草取り・網戸貼り・障子張りの活動などコミュニティ研究会を中心に行った。 ・まちづくりセンターなどで児童を対象に本の読み聞かせなどを行った。 ・施設訪問などは、サマーショートボランティアなど依頼があった活動のみで、参加者も限られ十分に活動したとは思えない。 ・次年度より音楽部が、富士市の福祉協会に協力する中でボランティア登録を行い、定期的に施設訪問を行う予定である。 	B
学校関係者評価委員から	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元コミュニティとの行事等がよくなされ、地域との連携は密になっている。 ・ 災害等のボランティア活動が注目されている中、ボランティア活動がさらに活性化することが望まれる。 ・ 運動部だけでなく、文化部も非常に頑張っているのが、Aとした。 ・ 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動、部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開、施設訪問やボランティア活動の活性化については、地域のつながりが薄くなっている今日、地道に、地域へ飛び込み活動を展開する姿は大変に好感が持てる。そして、学校の広報に、大きく貢献していることが良く理解できる。これをもとに、将来に向け、大きく展開できる活動へと繋がる可能性を確信する。生徒の自主性を尊重しながらも学校がバックアップする体制を強化して頂きたい。 ・ 女子バレーなど、中心となる部活動が地域の中学校の子供たちに向けてバレー教室などの地域貢献を設けて、それが、この学校に行ってみたくという動機づけになるのではと思う。顧問の先生も忙しいでしょうが、広報の一環になる。富士見高校の潜在力をもっと表に出してあげることも広報だと思う。 ・ コミュニティ研究会やバトントワリング部吹奏楽部等が、地元地域のイベントに参加し、地域の方々に富士見中学高等学校を理解して頂き良いPRになっている。 ・ 部活動による外部イベント時の演技演奏活動等は、地元だけでなく他の地域のイベントに参加したほうが望ましい。ただ移動時間や道具や楽器の運搬がネックになるが、是非とも実現し富士市全体に富士見中学高等学校の良さを広げてほしい。 ・ ボランティア活動等の活性化では、富士市各地区まちづくり協議会の祭りや教育等のイベントとコラボすることが望ましい。 ・ 音楽部が 3 月 31 日の蒲原桜まつりに来てくれるという案内が来たが、良いことで、地域の人はこの楽しみをしている。 ・ コミュニティ研究会を中心とした活動は、子供から高齢者まで幅の広い年齢層に喜んで頂いております。地域の人たちの交流の場づくりにも貢献して大きな存在になっていると思う。 ・ コミュニティ研究会が地元のイベントに積極的に参加し、新聞記事になるなど、富士見高校の大きな宣伝になっている。 ・ 地元を中心としたコミュニティへの行事参加・貢献活動は素晴らしいが、地元以外の市内他地区への活動もお願いしたい。 ・ 地域とのつながりを大切にして、「家庭・学校・地域」が三位一体となって盛り上げて行くことは、情操教育にもつながり、将来の担い手となる人材育成にもつながると思う。 ・ 外部イベント等で、富士見高校の部活動を見た子供たちが、将来富士見高校に入学してくれるとありがたい。 ・ 施設訪問のボランティアは、介護等の仕事が多いようだが、人を助ける素晴らしさを実感できると思う。 ・ コミュニティ研究会の活動は全てが自発的ではないかもしれないが、参加することで人から感謝されたり、頼りにされたりして、その経験が新たな行動につながる気がする。きっかけは学校側の働きであっても、結果的に本人が得るものがあれば、対外的なアピールになり、素晴らしい効果になると思う。保護者会を含めての応援が望まれる。 	A 6 B 1

5. 生徒募集のための取り組み		
実践計画	<p>(1) 入学者確保のための分析・戦略</p> <p>(2) 広報活動の活性化</p> <p>(3) 広報行事のアピール内容の強化（学校説明会・部活動見学会・体験入学等） 学校説明会や体験入学で在校生を使って、本校の良さをアピールする。</p> <p>(4) 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化） 各校訪問・各中学校が主催する進路説明会への参加等を積極的に働きかける 大手の塾だけでなく中小の塾への対応をきめ細かく行う</p> <p>(5) 地域への啓発活動</p> <p>(6) ホームページや SNS を利用した広報活動の拡充 訪問者の役に立つ情報、内容が面白いコンテンツの掲載、ページの整理と内部リンクの整備、コンテンツを頻繁に更新等、在校生の協力を得ながら、全教員が各部署で情報庭球できるような仕組みを目指す。</p>	
自己評価	<p>(1) 入学者確保のための分析・戦略⇒評価 B →・令和 5 年度入学生に比べ、単願者数は減少したが、併願者を含めた受検者数は増加した。 ・今年度は公立志向が非常に高く、塾の指導で富士東高校や吉原高校などに挑戦している生徒が多数存在していると思われる。 ・公立志向から特進コースへの志望を増やす為に、令和 7 年度入学生から新しく魅力ある特進コースにする改革を行い、楽しく、様々な活動ができた上で進路に期待できる学校へと準備を進めている。</p> <p>(2) 広報活動の活性化⇒評価 C →・富士駅のポスター掲示を行ってきたが、広報活動としては十分な効果を得られなかった。 ・駅の掲示板に替わる物として、学校周辺で案内板や掲示板等を設置することにより、学校をアピールする場所が必要だと思われる。 ・報道機関へは提供しても報道される機会が少ないと感じている。 ・コミュニティ研究会は数多く報道されているので、地域社会と協力することが大切であり、様々な形でアピールする方法を模索していく事が必要だと思われる。</p> <p>(3) 広報行事のアピール内容の強化⇒評価 B →・昨年より行っている部活動見学は、たくさんの中学生在が参加し好評であった。 ・学校見学や体験入学は、例年通りの参加者数であった。 ・体験入学は、在校生による司会進行やコース説明等が好評であった。 ・特進コースのアピールが不足し募集に繋がっていない為、特進コースのみの説明会や学習会などの新しい企画を計画している。</p> <p>(4) 中学校・塾との連携強化⇒評価 B →・富士地区の中学校への訪問回数を増やし、現場の先生方との対話の機会を多く持つように心掛けた。 ・富士宮市の中学校では、以前に比べ進路説明会への参加要請が増加した。 ・本校の広報活動のみならず、中学校からの要望に応えたニーズに合った説明会を行い、現場の先生方との連携強化に努めたい。 ・塾においては、従来通りの訪問回数であった。 ・最近の傾向として、中学校より塾の指導に従い、受検校を決定していくケースが多い。 ・塾訪問での関係強化だけでなく他の連携の方法を模索していく必要がある。</p> <p>(5) 地域への啓発活動⇒評価 C →・コミュニティ研究会が中心となりコミュニティ通信 Neo などを学校周辺の町内会に配布するなどの啓発活動を行った。 ・富士見中学校の募集で行ってきたような、まちづくりセンターや公民館等にポスターやチラシ・通信などを掲示してもらうなど、富士地区全域への広報活動が必要だと思える。</p> <p>(6) ホームページや SNS を利用した広報活動の拡充⇒評価 B →・HP では、部活動を含めた様々な活動をアップすることに努めたが、十分な PR に繋がっているとは思えない。 ・外部の業者等との連携の検討も必要だと思える。 ・SNS では、在校生の協力を得なかったが、様々な行事や試合結果等をすぐにアップすると共に学年便りにも QR コードを載せることによりフォロワー数は増加した。</p>	B
学校関係者評価委員から	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の志願倍率は、県内私立高校の平均以上である。 ・ ホームページの広報活動は良いが、更新回数が少ないのは残念である。 ・ 報道機関の利用が他校に比べて少ない。 ・ 入学者確保のための分析・戦略について、新しく魅力ある特進コースとは何か。広報活動の活性化のなかで、報道されない理由をどう分析されているか？「地域社会との協力」「様々な形でアピール」はキーワードだと考える。 ・ 広報行事のアピールについて、内容の強化を狙ったなか、特進のアピール不足について、何を企画されるのか。中学校・塾との連携強化では、中学校への訪問回数が増えていることは好ましいし、「連携の強化」は大切。 ・ 広報媒体は、世代で異なるので精査し、厚い対応を望みたい。地域への啓発活動について、HP や SNS を利用した広報活動の拡充にあっては、まずは、瞬間のうちに「知ってもらおう」ことができ、軌道に乗ってきていると感じる。常時、部活動の活躍がポストされている。今後はこれらをどうオーガナイズし、戦略を持って、広報を次のステージに押し上げる段階(SNS 広報戦略)となろう。 ・ HP や SNS を利用した広報活動の拡充とありますが、やはり保護者の意見は大事です。しかし、間違った情報や、口コミや SNS だけで判断してしまう保護者もいる。学校と繋がりがある保護者より、一般保護者の意見を聞いたほうが望ましい。 ・ 静岡大・静岡県大への入学者を増やし、また、神奈川大学・神奈川工科大学との連携強化も他とは違う何かを持つことが望ましい。 ・ 生徒募集に向けた先生方の献身的な取組が良く伝わってきます。生徒の生き生きとした部活動・生徒会活動・年間行事に励んでいる姿が魅力ある PR で情報発信され、生徒募集につながったと思います。 ・ 学校説明会、部活動見学会、体験入学等で、生徒募集をしているが、現在の子供の進路は、クラス担任より塾の先生の方が、進路決定の役割が非常に大きいと感じている。 ・ 学校説明会で在校生の説明は、説得力があり素晴らしい。入学志願者にとっても、近い年代の説明の方が受け入れやすいと思う。 ・ ホームページや SNS を利用した広報活動は、わかりやすくタイムリーな情報が発信できていると思うので、今後も継続して欲しい。 	A 3 B 3 C 1

	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや SNS で生徒の活躍が見られて良いことだが、チェックしている保護者は少ないか。入学を考えている方は口コミで検討する機会が多いので、在校生の親にファンを増やす必要がある。その点、アンケート No. 15 の「この学校を知合いに勧めたいか」が昨年より減り、また No. 12 の「学校・担任は個々の生徒に配慮した指導の実現に努力しているか」も減っているのが気になる。 	
--	---	--

学校関係者評価委員から、その他の意見

- ・ 中学募集停止を機に、今後 10 年間のスケールで本校がめざす目標を考えてほしい。
最近、富士・富士宮地区の公立高校の募集減にともなう今後の在り方についての会議があった。本校は県内の静大、県立大等の国公立大学への進学に特化した進路指導体制を進めてほしい。
- ・ 進路や生徒募集は柱の一つ。最終的にそこに行きつくと思うが、行きつくまでの理念やノウハウを明確にしていく必要がある。中学校訪問が増しているのは見えるが、そういう取組が結果として出てくるのが欲しい。
通信制という話も出ているが、そういったところに対抗してく手段も必要だろう。
- ・ アンケートやこの評価表も読み込みは大変。現場を経験してきた者ならどうにか読み込み、評価作業をこなすが、それ以外の方にとっては、この量をこなすのは大変だろうと感じる。
- ・ 基本的には、評価委員会は、学校側の「大きな流れ」や究極的に「目指すところ」を討議することにあるのかと。よって、概要版を準備していただくと有難い。また、昨年度当評価委員会から出た意見が、どのように今年度反映されているかが見えない。と同時に、「言いつばなし」で、この会合が、「はい、実施しました」というもので終わってしまっているように感じる。
- ・ 昨年「どのような意見があり」「それをどう活かし、このような結果であった。」という展開を期待したい。また、学校としても「今年度、力を入れるポイント」と全体で認識し、一年の取組みから、「このような変容があった。」というものであれば、評価委員としても貢献したところを実感できるのではないかと。
- ・ 一年を通じてのものとして、ところどころに学校が狙いとすることが展開しているはず。そのあたりもしっかりガイドして、評価委員へ提示されると有難いかと思う。
- ・ 女子バレーボール部の春高バレー11年連続出場、そして今年は初のベスト8入りを果たし、その素晴らしい活躍を称えたい。部活動全体の活性化につながり、良い影響を与えてくれたと思う。
- ・ アンケート結果では、テレビを見たりゲームをしたり携帯をいじったりして費やす時間が1日平均3時間以上が50%を越えている（進学・総合コース）が、多過ぎると感じる。
- ・ 富士市も小中一貫教育が予定されていると聞くが、小学生の頃から入学を見据えた交流を持つなど、更に積極的な活動が必要かもしれない。

今後に向けての学校の考え（学校関係者評価を受けて）

令和6年度入学生が定員の92%でありましたが、定員確保に向けて高校卒業後の進路に期待のできる学校へと考えています。その中で、特進コースの改革が急務であり、昨年に引き続き会議の定例化及び生徒・保護者の希望に即した募集方法の改革（Ⅰ・Ⅱ類の廃止及び括り募集）、現状分析を踏まえた上での生徒個々に合わせた個別指導の充実などの対応を考えています。また、中学校の募集停止に伴い、中学の在校生の本校に対する不安などを払拭するために、特進コースとの連携を図り、従来までの活動の継続のみならず新たな活動（高校生との交流の強化）を検討していきたいと考えています。

総合コースでは、コース名変更から様々な進路に即した進路指導を中心に充実した学校生活を送れるように改革を進めました。しかし、高校入学後、現状は安易な方向に流れるケースも多くコースの特色が失われつつある中で、学習活動のみならず部活動等、放課後の活動や課外活動を活用して学校に目を向けさせ、充実した高校生活を送れるようにと魅力ある総合コースへ生まれ変われるように検討会議の立上げを考えています。

委員からも指摘のありました、学校評価書は概要版によりポイントを絞り評価委員会の意見を反映させ、委員会の意義を高めていきたいと考えています。また、学校評価アンケートでは、内容の精査（評価書とリンクする内容）することにより、卒業時には、富士見で良かったという満足度のアップ及び「誇れる学校」「薦めたい学校」「行かせたい学校」を目標にしていきたいと考えています。

以上のように、従来まで行ってきた生徒に寄り添う個別指導の徹底を継続する中で、進路に期待できる学校へと、創立100周年に向けて学校改革を進めていきたいと考えています。